

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475301071	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 ウィズネット		
事業所名	グループホーム みんなの家・川崎久地		
所在地	(〒213-0032) 神奈川県川崎市高津区久地2-12-22		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和元年11月26日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用いただいている皆様の「行きたい所」「食べたい物」「やりたい事」等に耳を傾け「個別レクリエーション」として多くの「外出レク」を行っている。
(ファミリーレストランや蕎麦屋、寿司屋、焼肉屋、中華料理店等での外出昼食、またケーキ屋、喫茶店、甘味処等へのおやつ外出。緑豊かな公園や競馬場、カラオケへの外出等)やりたい事を出来る限り「実現」させていくことで「笑顔」へと繋げている。
・地域交流(町内さくら祭りの参加や秋祭り時の神輿・太鼓の来訪。体操開放日等)を活発に行っている。その他くじいこいの家・子母口いこいの家で「認知症」に関する講演を行った。
・外部発信(事業所ブログに、日々の写真や出来事を出来る限り分かりやすく掲載)を続けている。これによりご家族様は勿論であるが、それ以外(施設をお探しの方等)にもより身近に「グループホームみんなの家・川崎久地」を感じて頂ける様になった。
※実際ブログをご覧になられて当事業所を気にかけて下さり、入居に繋がったケース有。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和元年12月16日	評価機関 評価決定日	令和元年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇一人一人の意向に合わせた「外出レクリエーション」の実施
利用者個別の外出レクリエーションとしては、ファミリーレストランを始め蕎麦屋や回転寿司、焼き肉屋、中華料理店などの他、ケーキ屋や喫茶店に出向き、また、公園や競馬場、カラオケ店にも出かけている。このように、利用者の意向を実現することで、事業所理念の「昨日・今日・明日を考え、笑顔で楽しい毎日！」を実践している。
◇地域との活発な相互交流の実践
町内会の桜祭り、秋祭りや防災訓練に利用者職員が参加している。一方、事業所の体操の日(月1回)や映画会、カラオケ大会、音楽会のイベントには、地域住民が参加するなど、それぞれの行事に相互に参加し交流を図っている。
【事業所が工夫している点】
◇月1回の出前昼食の実施
食事のレクリエーションとして、毎月出前昼食を採っている。利用者はラーメンや蕎麦など好みのメニューを選び、昼食時間を楽しく過ごしている。
◇ブログでの家族への情報提供
事業所のブログで、利用者の日常生活やレクリエーションの様子を写真と文章で案内している。台風の際、利用者の安否のほか、浸水に備えて2階に避難したことや水囊を玄関前に敷き詰めたことなども報告し、家族に感謝されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・会社理念を玄関、スタッフルーム内に掲示している。 毎日の申し送り時に唱和し意識付けを行う事により、実践に繋げている。	・事業所理念「昨日・今日・明日を考え、笑顔で楽しい毎日！」と法人理念「必要な人に必要なサービスの提供を」を、毎日朝夕の申し送り時に唱和している。 ・管理者は、笑顔がケアのポイントと考え自らも心がけ、職員にも笑顔でのケアを指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	四季折々にある町内の行事への参加（町内桜まつり、秋の神輿等）や地域からプロジェクターをお借りしての映画会や近隣の飲食店に出向き、食事やおやつを楽しむ機会を持つ事を継続している。	・町内会の桜祭り、秋祭り（子ども神輿と太鼓が来訪）、防災訓練に利用者や職員が参加している。月1回、事業所の体操の日や映画会、カラオケ大会、音楽会のイベントに地域住民が参加している。 ・腹話術、楽器演奏、フラダンスのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久地いこいの家・子母口いこいの家にて「認知症」についての講演を行った。その他体操開放日にはホームを解放して健康増進体操を行っている。地域との繋がりを深め、認知症理解をより深めてもらえるよう努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に近隣施設「久地2」と共催もしくは久地単独にて開催をしている。ご家族様、町内会長、老人会会長、地域住民代表、民生委員、地域包括職員等に参加して頂いている。 活動報告、意見交換の中から更なるサービス向上へと活かしている。	・運営推進会議は、2か月毎に家族、町内会長、老人会会長、民生委員、地域住民と地域包括支援センター職員が出席し、開催している。 ・参加者から「老人会のプロジェクターを借りて映画会を開催したら」との提案があり、実施した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員や区役所職員とは介護保険や生活保護等に関する事で密に連絡を取り合っている。又、地域包括支援センター職員、区役所職員の依頼によりくじいこいの家、子母口いこいの家にて認知症に関する講演を行った。	・区の保護課の職員が、生活保護受給者の状況把握で来訪する際、個別相談をして、情報を共有している。 ・区の職員と地域包括支援センター職員の依頼により、管理者が、「くじいこいの家と子母口いこいの家」で認知症に関する講演を行った。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、月に一度の話し合いの中で皆で理解を深めている。又、身体拘束チェックシートを用いて3ヵ月に一回の見直しを継続している。	・毎月の「身体拘束廃止委員会」で、1か月の身体拘束の有無を振り返り、事例検討とロールプレイング、疑似体験での研修を行っている。 ・居室担当者は、3か月毎にチェックシートで自己評価し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、月に一度チェックシートを用いた話し合いを行う他、会議でも定期的に話題にし、意識付けを行う事で防止に努めている。又、勤務に入る前に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和する事での意識付けも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる制度がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受け付け、安心して理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、日常でのご家族様来訪時や電話連絡時にご利用者様の近況を伝え、意見や希望等あれば随時お伺いし、反映させ続けている。	・家族の意見・要望は、隔月の家族会のほか、運営推進会議や面会、電話連絡で聞き出している。 ・管理者は面会時笑顔で対応し、意見を言いやすい環境を作っている。 ・家族からの「外出やレクリエーションを充実して欲しい」との要望に、積極的に応えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個別に面談する機会を設けている。 又、連絡帳を通して常に意見出来る環境を作り、反映させている。	・職員の意見・提案は、日々の会話やフロア会議、年1回の個人面談などで聞き出し、運営に反映している。 ・管理者は、家族会の開催回数の見直しなど、運営上の重要事項を職員と相談して決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、人事考課を実施している。 個々の職員の頑張りを平等に評価する事でやる気や向上心を持って働いている環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。 各自働きながらスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が同業者他法人に勉強会に行く等、ネットワーク作りを継続している。近隣施設や法人内他施設と交流する機会を有している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調情報と入居後のコミュニケーション、アセスメントから主に汲み取り、関係作りに努めている。入居後一か月内は特に配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族様の話を傾聴している。 面会時には積極的にコミュニケーションを取る事でご家族様が気軽に相談できる環境を目指し、継続している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有。「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意思を尊重した上で、出来る事を行って頂き、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時、家族会、運営推進会議、毎月発送している一言通信、その他連絡があった時に常に報告・連絡・相談を行い、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中で出たワードを基に昔からの趣味や馴染みの場所への外出、話題提供を行っている。 その他ご家族、ご友人との外出や外泊の橋渡し、支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。 ・利用者に馴染みのスポーツ新聞の購読や化粧品購入を支援している。 ・利用者の希望に応じて、競馬場やカラオケに職員が付き添っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でご利用者様同士の関係性を把握し、職員が橋渡しを行う事で相互支え合うような支援に務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォローや真摯な対応を続けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションの中で思いや希望を把握している。思いに添えるようなケアの実現を目指している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して、本人・家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。 ・職員は利用者との日常会話から、思いや意向の把握に努めている。 ・意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報や、利用者の行動、表情から推測している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にて過去の生活歴等これまでのご本人様の暮らしについての把握を行う。又、日々の生活の中でも会話の中等から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、水分、入浴、排泄等各チェックシート、バイタル表を用いて把握をしている。又、日々の申し送りや連絡ノート、生活記録により毎日の変化を認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、ご本人様、ご家族様の意向は必ず取り入れている。見直しに関してはカンファレンスを適宜行い、現状に即した介護計画を作成している。	・介護計画は、6か月毎の居室担当者のアセスメントと3か月毎のモニタリングを基にカンファレンスを行い、本人・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。 ・計画は6か月毎に見直し、状況変化時にはその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り、連絡帳、医療ノート、健康管理チェック表等を用いて情報共有し、日々の実践や介護計画の見直しに務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様個々のニーズに合わせたサービスの提供をしている。（訪問マッサージ、シニアセラピー、個別レクリエーション等）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な外出（公園散策、カラオケ、ケーキ屋等）を楽しみながら、地域資源の有効活用を継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔なじみの関係である。かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変の際も緊急対応出来る支援体制である。	・利用者全員が、提携医の内科医、歯科医を主治医とし、月2回（歯科は週1回）の往診を受けている。 ・精神科など専門医の通院は原則家族が付き添い、受診情報は職員が通院報告書に記録し、職員、医療関係者で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録が介護職、看護職が相互に報告・連絡・相談をしようツールとなっている。直接ケアの現場においても助言を受けたり相談をする事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と密に情報交換を行い関係作りに努めている。又、退院前には必ず家族・主治医・施設関係者とで数回のムンテラの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期における対応の説明を行っている。必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族様を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に重度化した場合の対応につき、利用者・家族に説明し、家族会でも折に触れて説明している。 ・重度化の段階に応じて、家族・医師を交えて方針を共有し、医療関係者と協力して支援している。 ・年1、2回行われる法人のターミナル研修に、職員が参加している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生・緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防、水害訓練を定期的に行い、実践訓練を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、利用者や地域住民が参加し、地震や火災の避難訓練を行っている。内1回は消防署員が参加し、訓練後に、助言を得ている。年1回、水害時避難訓練も行っている。 ・3日以上の水や食料を備蓄し、備蓄品リストを作成している。 	・賞味期限や数量の確認のため、備蓄品は定期的に点検することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりにあわせた声掛けを行っている。不定期にフロア会議内で接遇・言葉掛けに対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にされた対応を続けている。	・入職時職員は、人権尊重などの接遇研修を受け、折に触れて会議で話し合っている。気になる職員の言動には、管理者が都度指導し、職員間でも注意し合っている。 ・申し送りは利用者と離れた所で行い、居室に入る際は、利用者に声をかけプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話やコミュニケーションの中からご本人様の思いや希望などを汲み取り自己決定がなされるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思を最大限尊重する事を大切にしている。 職員はご利用者様の心身の状態を把握し、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや散髪、ヘアカラー等その人らしい身だしなみができるよう支援している。 外部の美容院に定期的にいかれる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片付け等をご利用者様の得意な事や能力を把握した上でお手伝いをして頂いている。 又、毎月の出前や外食、食事会など「食」を楽しむ機会を作っている。	・職員と利用者は談笑しながら一緒に食事している。 ・利用者も配膳や後片付けに協力している。 ・利用者それぞれが選んだ出前や外食、おやつ作りなど、食を楽しむ機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、食事、水分量の把握や食事に同席して嚥下、咀嚼状態の確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お声かけや促し、付き添いにて口腔ケアの支援をしている。見守り、半介助、全介助、声掛け支援等、個々の能力に応じた対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターン把握をし、それぞれに合った自尊心を傷つけない対応を続けている。 適宜カンファレンスで見直しをしている。	・チェック表を活用し、様子を観察してさりげなく声かけ誘導して、トイレでの排泄を支援している。 ・医師と協力して、入居前から使用していた下剤を見直すなど、細やかな支援に努め、排泄の自立に繋がった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や運動、水分量確保や乳酸菌飲料を摂取して頂いたり内服薬（下剤）等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人様の意向や希望をお伺いし、希望を考慮した上で入浴支援を行っている。 入浴日の固定、時間の固定、無理強いはない。	・利用者は原則週2回、入浴している。入浴回数などの要望には、できるだけ応えている。 ・一人で入浴したい利用者には目立たないように見守り、お喋りしたい利用者とは会話や歌を楽しむなど、一人一人に合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様個々のその時の状況を把握した上で時々にあった休息をして頂いている。 臥床が必要な方は時間を作り臥床し、除圧して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬剤師より説明を受け、薬の理解を深めている。 又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や好み、得意な事に合わせて役割や楽しみ事を支援している。 (散歩、歌、外出、おやつ作り、読書等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆様それぞれの「いきたい所」や「食べたいもの」の実現が出来る様、レストランでの昼食や甘味処ケーキ屋さんでのおやつタイム。緑豊かな公園での外出や競馬場外出等ご希望に沿った外出支援を続けている。	・週に2~3回、川辺に鯉を見に行くなど、近隣を散歩している。 ・利用者は、近隣神社への初詣や多摩川の土手でのお花見など、季節ごとの外出を楽しんでいる。 ・カラオケや映画鑑賞、外食など、要望に応じた外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてご利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っているが、ご家族様了承の下、安心の為少額を持たれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙書きの補助、投函支援を行っている。 ご自分の携帯電話を使用している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、換気、温度調整は毎日欠かさず行っている。季節ごとにご利用様が体験した出来事の写真を掲示し、いつでも思い出を振り返られるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間は、温湿度管理が行われ、職員が当番制で掃除して清潔に保たれている。 ・夕食後は、就寝に向け落ち着いて過ごせるよう、照明を少し落とすなどの配慮がなされている。 ・折々に、鏡餅や雛人形などで季節感を演出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファや大型テレビ、雑誌のラックや少人数用のソファを設置している。 個人でくつろがれたり、仲の良い方と談笑されたり個々の時間を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が慣れ親しんだ家具や仏壇、ぬいぐるみや写真等を持ち込んで頂き、ご本人様が心地よく過ごして頂ける様工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはベットや空調機、洗面台、タンスが備えられている。利用者はテレビや仏壇、家族の写真など好みの物を持ち込み、それぞれに居心地よく整えている。 ・清掃やリネン交換は、居室担当者が主となって行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の表札をわかりやすく文字拡大し、掲示している。 又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境を整えている。		

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・会社理念を玄関、スタッフルーム内に掲示している。毎日の申し送り時に唱和し意識付けを行う事により、実践に繋がっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	四季折々にある町内の行事への参加（町内桜まつり、秋の神輿等）や地域からプロジェクターをお借りしての映画会や近隣の飲食店に出向き食事やおやつを楽しむ機会を持つ事を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久地いこいの家・子母口いこいの家にて「認知症」についての講演を行った。その他体操開放日にはホームを解放して健康増進体操を行っている。地域との繋がりを深め、認知症理解をより深めてもらえるよう努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に近隣施設久地2と共催もしくは久地単独にて開催をしている。ご家族様、町内会長、老人会会長、地域住民代表、民生委員、地域包括職員等に参加して頂いている。活動報告、意見交換の中から更なるサービス向上へと活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員や区役所職員とは介護保険や生活保護等に関する事で密に連絡を取り合っている。又、地域包括支援センター職員、区役所職員の依頼によりくじいこいの家、子母口いこいの家にて認知症に関する講演を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、月に一度の話し合いの中で皆で理解を深めている。又、身体拘束チェックシートを用いて3カ月に一回の見直しを継続している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、月に一度チェックシートを用いた話し合いを行う他、会議でも定期的に話題にし、意識付けを行う事で防止に努めている。又、勤務に入る前に「虐待ゼロへの行動指針」を唱和する事での意識付けも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場、参加できる制度がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受け付け、安心して理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、日常でのご家族様来訪時や電話連絡時にご利用者様の近況を伝え、意見や希望等あれば随時お伺いし、反映させ続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個別に面談する機会を設けている。 又、連絡帳を通して常に意見出来る環境を作り、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、人事考課を実施している。 個々の職員の頑張りを平等に評価する事でやる気や向上心を持って働いていける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。 各自働きながらスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が同業者他法人に勉強会に行く等、ネットワーク作りを継続している。近隣施設や法人内他施設と交流する機会を有している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調情報と入居後のコミュニケーション、アセスメントから主に汲み取り、関係作りに努めている。入居後一か月内は特に配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族様のお話を傾聴している。面会時には積極的にコミュニケーションを取る事でご家族様が気軽に相談できる環境を目指し、継続している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有。「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意思を尊重した上で、出来る事を行って頂き、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時、家族会、運営推進会議、毎月発送している一言通信、その他連絡があった時に常に報告・連絡・相談を行い、共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中で出たワードを基に昔からの趣味や馴染みの場所への外出、話題提供を行っている。その他ご家族、ご友人との外出や外泊の橋渡し、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中でご利用者様同士の関係性を把握し、職員が橋渡しを行う事で相互支え合うような支援に務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォローや真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションの中で思いや希望を把握している。思いに添えるようなケアの実現を目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にて過去の生活歴等これまでのご本人様の暮らしについての把握を行う。又、日々の生活の中でも会話の中等から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、水分、入浴、排泄等各チェックシート、バイタル表を用いて把握をしている。又、日々の申し送りや連絡ノート、生活記録により毎日の変化を認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、ご本人様、ご家族様の意向は必ず取り入れている。見直しに関してはカンファレンスを適宜行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り、連絡帳、医療ノート、健康管理チェック表等を用いて情報共有し、日々の実践や介護計画の見直しに務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様個々のニーズに合わせたサービスの提供をしている。（訪問マッサージ、シニアセラピー、個別レクリエーション等）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な外出（公園散策、カラオケ、ケーキ屋等）を楽しんで頂きながら、地域資源の有効活用を継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔なじみの関係である。 かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変の際も緊急対応出来る支援体制である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師連絡記録が介護職、看護職が相互に報告・連絡・相談をしあうツールとなっている。直接ケアの現場においても助言を受けたり相談をする事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と密に情報交換を行い関係作りに努めている。又、退院前には必ず家族・主治医・施設関係者とで数回のムンテラの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期においての対応の説明を行っている。必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族様を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生・緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防、水害訓練を定期的に行い、実践訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりにあわせた声掛けを行っている。不定期にフロア会議内で接遇・言葉掛けに対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にされた対応を続けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話やコミュニケーションの中からご本人様の思いや希望などを汲み取り自己決定がなされるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思を最大限尊重する事を大切にしている。 職員はご利用者様の心身の状態を把握し、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや散髪、ヘアカラー、等その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。 外部の美容院に定期的にいかれる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片付け等をご利用者様の得意な事や能力を把握した上でお手伝いをして頂いている。 又、毎月の出前や外食、食事会など「食」を楽しむ機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、食事、水分量の把握や食事に同席して嚥下、咀嚼状態の確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お声かけや促し、付き添いにて口腔ケアの支援をしている。見守り、半介助、全介助、声掛け支援等、個々の能力に応じた対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターン把握をし、それぞれに合った自尊心を傷つけない対応を続けている。適宜カンファレンスで見直しをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や運動。水分量確保や乳酸菌飲料を摂取して頂いたり内服薬（下剤）等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人様の意向や希望をお伺いし、希望を考慮した上で入浴支援を行っている。 入浴日の固定、時間の固定、無理強いはいはしない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様個々のその時の状況を把握した上で時々にあった休息をして頂いている。 臥床が必要な方は時間を作り臥床し、除圧して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬剤師より説明を受け、薬の理解を深めている。 又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や好み、得意な事に合わせて役割や楽しみ事を支援している。 (散歩、歌、外出、おやつ作り、読書等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆様それぞれの「いきたい所」や「食べたいもの」の実現が出来る様、レストランでの昼食や甘味処 ケーキ屋さんでのおやつタイム。緑豊かな公園での外出や競馬場外出等ご希望に沿った外出支援を続けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてご利用者の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っているが、ご家族様了承の下、安心の為少額を持たれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙書きの補助、投函支援を行っている。ご自分の携帯電話を使用している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、換気、温度調整は毎日欠かさず行っている。季節ごとにご利用者様が体験した出来事の写真を掲示し、いつでも思い出を振り返られるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファや大型テレビ、雑誌のラックや少人数用のソファを設置している。 個人でくつろがれたり、仲の良い方と談笑されたり個々の時間を過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が慣れ親しんだ家具や仏壇、ぬいぐるみや写真等を持ち込んで頂き、ご本人様が心地よく過ごして頂ける様工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の表札をわかりやすく文字拡大し、掲示している。 又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境を整えている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家川崎久地

作成日 令和元年12月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時の備蓄品リストに賞味期限、消費期限の記載がない。	備蓄品リストの更新	備蓄品リストに賞味期限、消費期限を記載。なおかつ誰が見ても見やすく、備品の補充、交換がしやすいリストの作成を行う。	2か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。